

## マイクロ波によるマインドコントロール

### 人権とプライバシーを奪う現代の拷問および支配のメカニズム

1999年9月29日 Microwave mind control:Modern torture and control mechanisms eliminating human rights and privercy

[エレナー・ホワイトのコメント

フィンランドの元最高医務責任者ラウニ・キルデ博士は、私たちが支持する勇敢な専門家のひとりである。キルデ博士は、英国ロンドンのトランスメディア・プロダクションが製作したビデオ(絶版)に出演したことで、CAHRA から賞をもらった。受賞銘板の文章を参照 (awardist.htm)。

キルデ博士は、次の記事をホームページに掲載することを許可してくれた。これは、これまで私たちが受けた支援の中で最も強力なものである。私たちは、キルデ博士に心から感謝している。]

21世紀になるとすべての人間がDNAマイクロチップをインプラントされることになるかもしれない、とサイエンティフィック・アメリカン誌が予想していることを、スカンジナビア最大の新聞ヘルシンギン・サノマット(ヘルシンキ新聞)1999年9月9日付で伝えている。

これが何を意味するかについてどれくらいの人々が理解しているであろうか?マイクロチップインプラントは、プライバシーの完全な剥奪を意味し、個人の身体的機能だけでなく精神、感情、思考プロセス(潜在意識や夢の挿入も含む)が外側からコントロールされることを意味する。

この技術はSF小説のように聞こえるが、実際は軍隊や諜報機関がおよそ半世紀も実験してきた極秘のマインドコントロール技術である。この実験は、一般市民だけでなく一般的な学者にも全く知らされないまま行われてきた。

メリーランドやイスラエルなどにある200億bps以上の処理速度を誇るスーパーコンピュータを使用すれば、何百万人の市民を同時に監視することができる。知らされていない人にとっては信じられない話であるが、実際のところ、脳とコンピュータを秘密裏にやりとりさせることによって、全世界の市民を完全に支配することができる。

人工衛星、マイクロチップインプラント、地域施設、スカラー量や異なる形の生体遠隔測定などを通じて処理するスーパーコンピュータと、思考スピードが 5000bps の人間の脳では比べものにならないことは容易に理解できる。

各人の脳は固有の生体電氣的共鳴/同調作用の性質を有している。スーパーコンピュータを用いた遠隔的神経監視システムは、マイクロチップがインプラントされた個人の神経系を通じてメッセージを送りこみ、個人の行動を思い通りに制御できる。もちろん、監視対象の個人を追跡し所在地を特定することもできる。

神経電磁気学的な対人実験は、「科学」や「国家安全保障」の名の下、すべての人権に反するナチス型の邪悪な実験形式で、いわゆる「か弱い市民」を対象に知らせることなくおよそ 50 年間続けられている。現在、マインドコントロール被害者が受けている身体的、心理的拷問はまるで劣悪なホラー映画のようである。ただホラー映画と異なっているのはフィクションではないということである。

マインドコントロール実験は、米国、日本、ヨーロッパなどで行われている。しかし、ほぼ例外なく、マスメディアはこの実験に関するすべての情報を抑え込んでいる。

米国のマインドコントロール技術は「非殺傷」兵器に分類されているが、完全に誤解を招くネーミングである。というのも、用いられている技術は致死的なものであり、がん、白血病、心臓発作、短期記憶から悪化するアルツハイマー型痴呆症など「通常の」病気の形をとって、徐々に死に至らしめるのである。したがって、これらの病気が世界中で増え続けているのも不思議ではない。

電磁場を利用する場合、極超低周波 (ELF)、超低周波 (ULF) そしてマイクロ波を用いて、ある特定の個人・団体または、不特定多数の一般大衆を標的として、意図的に病気、見当識障害、混乱を引き起こす。身体的、感情的な痛みにより一般市民が覚醒すれば、市民の怒りは不可避となる。

[エレナー・ホワイトのコメント ELF・ULF 周波数は焦点を合わすことができず、電波伝送の通常の方法では伝送できない。ELF,ULF 周波数では声を伝送できない。ELF,ULF は電波、超音波搬送波信号とともに伝送できるが、これにより、被害者を催眠術にかかりやすくしたり、眠れないようにしたり、昼間に眠らせたりすることができる。これは、バイオフィードバックを用いて、脳内の自然な ELF,ULF 電気活動を読むプロセスとは正反対のプロセスを行っているようなものである。]

一般市民にマイクロチップをインプラントしたり、マインドコントロール、拷問を行う計画の黒幕は誰であろうか？

[エレナー・ホワイトのコメント 神経電磁気学的実験の対象となった市民の報告によると、すべての人がインプラントされているわけではないことが明らかとなっている。少ないながらもインプラントを除去した被害者はいる。しかし一度対象となった市民の追跡・監視はその後も続く。このことは、インプラントの使用を牛耳り、明るみに出ないように注意している黒幕がいることを意味する。]

米国特許局は、精神的な監視および精神的な修正を目的とした次のような特許を認可した。

脳波を遠隔的にモニタリングし修正する装置および方法、意識における精神的、感情的、物理的状态を誘導する方法。意識を望ましい状態にする方法および装置も同様である。

非自発的または騙されてマイクロチップをインプラントされた市民は、国家安全保障の名のもとに行われているマインドコントロール実験の生物ロボットであり、モルモットである。

マイクロチップインプラント（もしくは、マインドコントロールのためのマイクロ波照射のみを用いた、現代の極秘の最先端技術）によってもたらされる実際の影響は一般市民には知らされない。携帯電話によるマイクロ波の危険性はあまり知られていない。

マイクロ波照射は健康上の問題を起こさないといった偽情報を誰が信じるであろうか？携帯電話企業にとって、経済的な問題は計り知れないので、健康問題は脇に置かれるのである。

しかし、たばこ産業に起こっていることと同じことは将来避けることができない。たばこ産業のように、健康被害に対する補償額が十分大きくなれば、健康障害が認識され、ユーザーが関連疾患の責任を取ることになる。

今日、すでに約50パーセントのフィンランド人、スウェーデン人、ノルウェー人が携帯電話を所有しており、特に若者の間での普及は著しい。

マインドコントロールに携帯電話を利用することは、画期的なアイデアである。軍隊や警察は携帯電話のユーザーを追跡し、マイクロ波によって彼らの思考に影響を与えることができ、健康な人に脳内音声を聞かせたり、もし必要であれば電流を2万倍にして彼らの脳を一瞬にして焼くことができるのである。

おそらくこれが、携帯電話で話し中に死亡したチェチェンのリーダー、ドダエフ將軍に起こったことであろう。

光の速さで組織を加熱する効果は、高出力のマイクロ波や電磁波パルス兵器における既知の効果である。

海軍の研究では、電磁波兵器により、疲労感、うつ病、不眠症、攻撃性、長期および特に短期記憶の消失、短期的な緊張状態、白内障、白血病、がん、心臓発作、脳腫瘍などが引き起こされる。行動や態度の変化も示された。

ロス・アディ博士は、0.75 ミリワット/cm<sup>2</sup> のパルス変調マイクロ波を 450MHz で照射すれば、人間の行動のすべてをコントロール可能であることを明らかにした。

マイクロ波照射は細胞内の水素結合を励起し、減数分裂を阻害し、その結果、腫瘍が生じる。

私たちの感情、気分、思考は固有の周波数を持っており、それらは分類されている。この記録データが間違った人々の手に渡れば、私たちの利益に反する倫理観、道徳を持った人々が、私たちの行動、態度を操作できるようになる。

軍隊にも諜報機関にもその類の人々が入り込んでいる。スイスの諜報機関の幹部が1999年9月に辞任した。理由は、違法な武器取引に組織を巻き込んだことと、この組織の内部にある別の闇組織を作ろうと画策していたことである。

世界的に潜入したこの闇組織は、世界の主要な諜報機関の内部で「タコ型」の活動（潜伏活動）を展開しており、マフィアやテロリストとも共同作業を行っている。闇組織は、すべての重要政府機関、国家および地方行政機関から人材をリクルートしている。

闇組織は、軍隊や一般人に対して使用するスターウォーズ技術を持っているが、「非殺傷」兵器であると言い張っている。

闇組織は、食い詰めた者、失業者、刑期を終えた囚人、精神病外来患者、学生、孤児などを訓練して、無実の市民に対し嫌がらせ、つきまとい、拷問などを行う。標的となった市民は、何らかの理由で闇組織の攻撃リストに掲載された人々である。加害者たちは、すでにあらゆる住宅街に潜んでいる。

[エレナー・ホワイトのコメント: このギャングのような潜伏活動はすべての分野で報告されているわけではない。キルデ博士の経験は北ヨーロッパでのものである。]

騙すことが重要で、末端の加害者たちには、被害者に関する悪意あるウソ話を吹き込み、彼らのやる気を維持している。彼らは軍隊の命令を受け、加害行動に対して報酬を受けている。新米の加害者はピンク色の服を着るのに対して、最上位のエリートは黒っぽいスーツに黄色いネクタイを着用する。

ネクタイに黄色やオレンジ色が混じっていることが新米加害者を意味するかもしれないし、同様に黄色いシャツや黄色い何か他のもので合図を送っているのかもしれない。

非常に多くの世界の指導者たちは、このような情報を入手可能な立場にいる。しかし、指導者たちは、罪のない市民に対して犯罪行為を行っていることを知らずに、この世界的な闇組織にとっての単なる表看板として利用されている可能性が高い。また、闇組織はマスメディアや大企業にも潜入している。

誰が標的なのか？兵士や囚人だけでなく、障害を持つ子供や精神疾患患者、同性愛者、独身女性に対する実験は続いていると考えられる。彼らはいまだに、電磁波戦争、化学戦争の実験的モルモットである。しかし、今では誰でも標的になる可能性があり、このシステムを考案した人たちでさえ逃げることはできない。

一般市民に対して秘密裏に行われている電磁波の照射について気づいている研究者は、彼ら自身が標的になっている。

米国の上院は、1997年1月22日にこの問題を議論した。米国空軍の「コマンド・ソロ」という航空機は、発展途上国で選挙が行なわれる際有権者の意思をアメリカにとって有利な国会議員に投票するよう潜在意識に作用するマインドコントロールのための電磁場照射に使用される。最近の例では、ハイチやボスニアが挙げられる。

1994年7月、米国国防省は、彼らが反対する活動を行っている市民、政治的に反対の立場にある市民、経済的競合者、反抗的な個人などを対象に、病気や死に至らしめることができる「非殺傷」兵器を使用することを提案した。

精神疾患に関する「精神疾患の診断・統計マニュアル」は、18か国語に翻訳されたよくできた隠ぺい工作であり、被害者に対する軍隊や諜報機関の加害行為を覆い隠している。このマニュアルでは、マインドコントロールによりもたらされる行動を妄想型統合失調症の症状としてリストアップしている。

患者はたとえば、-----テレビ、ラジオ、電話、スピーカー、レーザー、マイクロ波などを利用した現代的な技術によって監視されている-----心を変化させる薬をエアダクトから与えられたり、頭痛、吐き気などを誘発する匂いを嗅がされたりしている-----衣服や食べ物、水道水などが毒に汚染されている-----などと訴える。その場合、偏執狂と診断するようすべての医科大学で教えられている。諜報機関が背後にいると被害者が考えているようなら特にそのように診断される。

世界中の諜報機関が被害者に対して、監視や嫌がらせを通常業務として行っていることを、医療従事者たちが教えられることはない。このようにして、マインドコントロールの被害者は誤って精神障害者と診断され、信用されないので援助を受けることもなく、無知な医療関係者によって彼らの苦しみは増大する。生物医学的遠隔的測定法の専門家が、非倫理的に権力を乱用することは、一般人には理解できない。

マインドコントロールの目的は、意思や生存本能に反して、あらゆる諜報活動、暗殺を個人に行わせることであり、個人の絶対的行動や思考パターンをコントロールすることである。また、もうひとつの目的は、記憶を妨害し、常軌を逸した行動をさせて個人の信用を失墜し、狂人扱いし、自殺させたり人を殺させたりすることである。

政治家たちがマインドコントロールを禁止しない状況はどのようにして作られたのか？政治家自身もいつか被害者になり得るということを必ずしも理解していない。どれくらい彼らは関与しているのか？

今年、「環境、安全保障、外交政策に関する決議」のパラグラフ 23,24,27 において、1999年度ヨーロッパ議会は、「非殺傷兵器」や新しい兵器の開発について国際会議で議論し、規制するよう求めている。

さらに、ヨーロッパ議会は、人間を操ることができる兵器の開発、配置に関して世界的な禁止措置を導入するべく、国際的な会議の開催を要求している。

プロジェクト HAARP は、世界的な懸念材料であり、その法的、環境学的、倫理的意味を国際的な独立機関が検討し、さらなる研究、試験を行う必要がある。

米国はヨーロッパ議会の決議を無視する可能性がある。非殺傷的マインドコントロール兵器の危険性は、1994年7月ジュネーブで開催された赤十字国際委員会の専門家会議においてすでに明らかとなった。

マイクロチップインプラントは、個人の思考や行動に影響を与えたり、スーパーコンピュータの技術者が望めば、身体的・感情的な痛みを与えることができるような生物ロボットに人間を変えてしまうなど、著しくプライバシーを侵害することができる。このことに対する市民の意識は高まっており、人間の身体へのマイクロチップインプラントを拒絶することは道理に適っている。

マイクロチップインプラントは、人間性に対する最大の脅威であり、人間を永遠に奴隷化する邪悪な計画である。

もし、プライバシー権のある通常の人間であることを選択でき、そうあり続けたいのなら、あなたの子供やあなた自身に DNA マイクロチップインプラントを行ってはならない。

「非殺傷的」兵器を用いたマイクロ波によるマインドコントロールは、地球上の人類に対する歴史上最悪の犯罪である。全世界のすべての人々が力を合わせてマインドコントロールを阻止しなければならない。